

human

No234

2011/10

医療を通じて人と人とのふれあいを広めるために
ヒューマン(人)と名付けました。



「千葉大学 医学部」

救急指定・労災指定病院	さくら総合病院	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-6711(代)
老人保健施設	さくら荘	愛知県丹羽郡大口町新宮1-96 (0587)95-6722
訪問看護ステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8623
ヘルパーステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8026
居宅介護支援事業所	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8027
デイケアセンター	御 嶽	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (080)5294-5728
有料老人ホーム	太郎と花子	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10 (0587)95-0111



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail: info@ijinkai.or.jp

私の生い立ち その三 大学

外科部長 小林 豊

我々東京の高校生にとって、やはり東京大学医学部(理科Ⅲ類)は狭き門で、部活しかやらなかった上に、留学から帰って来て実力考査の数学で0点をとっていたような私にとって、いくら一浪していたとはいえず、挑戦するという考えすら浮かばなかった。となると、必然的に志望校は千葉大学医学部となった。予行練習のように千葉大学しか受験しなかった現役時代とは違い、一年間はちゃんと勉強した私は、昭和初期に建てられた医学部の建物(表紙写真)に憧れて受験した。運が味方したのか、なんとか引っかけた私は、合格発表で浪人生活に終止符を打った。

私にとって浪人時代は決して暗黒ではなく、それ以後、会費をドブに捨てるようになったフットネスクラブも、浪人時代だけは毎日通い、リフレッシュという名の本業のようになってい

た。その2で書いたが、留学の関係で2学年に及んで同級生の居る私は同級生の数が2倍いたため、当然遊びのお誘いも2倍の件数に登った。カラオケだのビリヤードだのデートだの断り方を知らない私は、今に負けず劣らず多忙を極めた。しかしながら、それ等の合間を縫って図書館に行き、昼寝と勉強を交互にしていた。

運と風を読むことで受験を切り抜け、合格発表で自分の受験番号があつたときの喜びは誰よりも大きい、という幸せな性分。国立大学の合格発表があると、その日に滑り止めで受けていた私立の大学からは受験結果を聞きに電話があつた。某N大学は、「おめでとうございます。では、内の大学の入学は取り消しとさせていただきますね。」ととても丁寧だったのに対し、某J大学は、「息子さんの入学金、まだ支払われていま

せんけどいいんですか？」というぶつぎりぼうで高圧的な電話だつた。その大学の担当者の運が悪かつたことに、その電話をとつたのはうちの親父だつた。親父は、「そりゃ行く気がない、つていうだけのことでしよう。そんなことでいちいち電話して来ないで下さい！」と一蹴した。こういう事務方の接遇でその大学のイメージは決まるなあ、と思つた。さくら総合病院の受付や電話での対応も、一事が万事、かなり重要な病院の顔となることを職員一同留意された。

さて、大学の合格発表と同時に始まるのが部活の勧誘だつた。花の大学生活だからナンパなテニスサークルか、千葉だから華やかなヨット部もいいなあ。中学高校と男子校だった私は、小学校以来の共学に胸を躍らせた。しかしながら、蓋を開けてみると、中学からずっと

やってきたバレーボール部に入ってしまった。当時女子部もないバレー部は、結局男子校のそれのようだった。一年生の春からレギュラーとして試合に出て、元東京選抜という触れ込みの威圧感で相手のミス誘うのが得意技だつた。私だけでなく同級生に経験者が数人いた甲斐があつて、東日本では毎年ベスト4以内に名を連ね、最高は全国で準優勝するまで至り、千葉大学の黄金時代を築いた。この頃の友人や知り合いは全国にいるが、医学部バレー部という狭いコミュニティではあるが、知名度はそれなりにあつた。私が国立がんセンターに勤務していたときに、何人かの医師に「先生は千葉大バレー部の小林さんですよ？ 僕もバレー部なんです。」と話しかけてくれることがあつたのは、バレーをずっとやっていた恩恵かと思う。茨城県のある病院に風邪で受診したときに、筑波大学の学生さんが「千葉大バレー部の小林さん！ 私、ファンなんです！」と言って来てくれたときに、ついついクールに受け流してしまつたのは、最大限の格好付けで、後になって後悔したのを覚えている。

共学の雰囲気を部活のなかでも捨てきれなかった私は、二丁があるという大義名分の下に、女子バレー部を創設し初代監督となった。最初は同好会として、これは授業のバレーか？と思う程のレベルで、サーブが入った方に点が入る、という散々な状態であった。そこから部員をかき集め、数年後には東日本で優勝するチームにまで持ち上げた。不純な動機、とよく誤解されるが、ここまで結果を残せば、許されるのではないか。女子バレー部の監督、いつの時代もあり良くは言われない。

その2で書いたように、アメリカに留学中に陸上競技をやっていた私は、大学在学中も東日本の大会では、槍投げだけは継続して参加した。さすがに大会だけの付け焼き刃では太刀打ちできず、毎回ブロンズメダクターに終わった。しかし、バレーボールの競技は会場が完全に男子と女子が別れていたのに対し、陸上は男女とも同じ競技場で競技を行うため、男子校上がりの私にとっては、新鮮であった。重ねて言うが、女子バレー部の創設は不純な動

機ではない。

大学の本文である学問という点、当時はとにかく千葉大学医学部は出席に甘かった。朝の弱い私は、稀に早起きして一時間に講義室に行きそつと扉を開くと、女学生だけが前の方に固まって真面目にノートを取っていた。ま、これからも、頑張つて一時間目の授業の途中、であることがわかるが、そんな女子大の講義室みたいなところに果敢に攻め入る程の気合は持ち合わせていなかった私は、そつと覗き込む程度だけ開いた扉を、同様に誰にも気づかれないことなく、そつと閉めたのであった。そんな日常を送っていた我々は、試験前は異常なまでの集中力を見せた。いや、見せざるを得なかった。一夜漬けを地でいくような生活を連日展開することに、定期試験をこなしていった。とはいえ、実習が多い医学部の授業は、全部さぼれるわけではなく、実習はしっかりと出席したんじゃないかなあ、と思う。こういうことだけは自信がない。

そんな大学生の頃、阪神大震災は起きた。関東からは遙か

遠方の地の出来事であったが、刻一刻と状況が明るみになるに連れて、なんだかじつとしていてはいけない気がした。私から親父に電話し、「病院として行こうよー」ともちかけた。2度目の勧誘の電話のとき、親父の気持ちは決まっていた。決まったからには親父の行動は早かった。私は置いて行かれまい、と千葉を発った。ノンストップで大口クリニクに着くと、既に準備は整っており、乗り込むだけの状態であった。我々が神戸に入った初めての医療チームだった。3日間働いた我々が帰路につく時、初めて自衛隊が入って来て引き継いだ。あのような状態の反省からDMAT(災害医療支援チーム)が創設され、大災害では自衛隊が当日に現地に入るようになった。当時の活動の詳細はここでは割愛するが、あの時の経験と精神が私の体に刻み込まれ、人生観が変わったと思う。あれがあったからこそ、今回の東日本大震災の翌日に最前線の石巻に入れたんだと思う(これについてはHuman本年5月号参照)。

部活で鍛えた体力と熱いハ

トで6年間を走り抜けた。人付き合いを重んじ、誘われたらほとんど断らなかつた。他大学のバレー部との会が卒業試験の前日とかにあつても、「試験に追試はあるが、この会に追試はない！」と断って参加していた。そんな私が卒業試験を一科目も追試にならなかつたのは、やはり要領の良さの極みであろうか。医者になつたら名古屋にも滅多に来れないかも、と思ひ、小学校時代の同窓会を6年生の夏休みに自ら企画した。14年ぶりに会つた懐かしい面々の中に、一緒に卒業してない娘がいた。親の転勤で6年生の途中で転校して行つた娘であつた。通常なら連絡先もわからず、同窓会にも誘われないところだが、ずつと文通していた同級生がいて、その同級生の誘いで、わざわざ同窓会に大阪から来たのであつた。その娘がいま私の奥さんであることは、あまり知られていない。そんな遠距離からの応援も少しは卒業試験やその後の国家試験の役には立っていたのであるう、と締めくくることが格好いいかな。

(つづく)



思春期診療について

小児科 道端 伸明

8月より小児科に赴任した道端伸明(みちはたのぶあき)です。

私は、沖縄県立中部病院、国立成育医療研究センター(旧国立小児病院)等で一般小児科のトレーニングを受けました。

現在は、特に、思春期年齢に起こる問題や疾患に関心を持っています。

思春期は、身体とところの両方が劇的に変化する時期です。身体的には第二次性徴の発現から骨端線の閉鎖までの時期を指し、男性なら精巣容量が4ml以上、女性なら乳房発育の開始が思春期の始まりとされます。こちらの方では、「親への依存」と「親からの自立」という2つの気持ちが揺れ動く、アンビバレントな感情を抱く時期です。年齢的には、10歳から20歳前後になりますが、性別や個人、社会背景によっても変化します。

米国では、思春期科が、新生児科、小児循環器科のように、小児科の中の専門分野の一つとして一般的に認められ、小児科の必須研修項目の一つにもなっています。

思春期診療が他科と大きく異なる点の一つに、Confidentiality(守秘性)の問題があります。中高生は、まだ親の保護下にありますが、それと同時に、プライバシーを持った一人の人格でもあります。

医師は思春期患者のプライバシーを親にも教えてはならないとされています(もちろん患者本人の同意があったり、自分や他人を傷つけてしまったりする可能性がある場合など例外はあります)。例えば米国の女子中高生は、親に知られることなく経口避妊薬を処方してもらうことができます。また、その際、受診情報が親に伝わらないようなシステムも確立されています。こういったシステムが性感障害などを助長させてしまうという意見や、欧米と日本の文化の違いもあり、議論は必要です。しかし、日本でも思春期患者のプライバシーを保った診療ができるようになることは重要で、今後改善されていかななくてはならない課題だと思います。

小児科外来の紹介

月曜日から土曜日の午前中に、小児科の外来診療を始めました。新生児から思春期まで、予防接種から急性疾患まで一般小児科を幅広く対応します。他科やコメディカルのスタッフと連携を密にし、地域住民の皆様に信頼される医療を提供できるよう努めたいと思います。

★健康を守る教室からのお知らせ★

脳卒中検診のご案内

脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)は中高年者を突然襲う脳の病気です。日本人の死亡原因の第3位を占め、寝たきり患者の約4割は脳卒中が原因です。しかし、十分な検査と適切な治療を行うことで脳卒中の発症を未然に防ぐことが可能になりました。この機会に脳卒中検診を受けてみませんか?

実施日: 毎週月曜日※祝日及び年末年始を除く

予約時間: 午後13時～、14時～、15時～

※所要時間2時間30分程度

料 金: 50,000円

予約方法: 当院ホームページから申込

<http://www.ijinkai.or.jp>

電話予約(医療連携室)

TEL 0568-95-0015

※ご不明な点がございましたらお問い合わせください。

心筋梗塞や脳卒中などの危険因子とされる特殊血液検査も行っています。



9月・10月の健康を守る教室はお休みです。次回開催は11月26日(土曜日)に開催します。詳細は11月号のヒューマンでお知らせしますので、よろしく願い致します。



NEW??Faceです!!

看護部 ICU主任 栗本 綾子

今年、4月よりさくら総合病院へ看護師として入職してきました。私の子供の頃に「大口クリニック」として開院し、私自身が子供の頃に度々お世話になった病院に看護師として十数年が経ち今回、看護師として勤務することとなり、とても感慨深い気持ちです。

さて、New Faceといいましてもフレッシュな要素は微塵もなく、Old Faceと言ったほうがよろしいかと思われる私ではございますが、私という看護師を知ってもらう上で、今回は私の考える看護について書かせていただきます。

「看護」という文字は、「手と目で護る(まもる)」と書きます。人を手で触れ、目でみて護るのです。それは、人が好きでなければできません。人間嫌いの人が触れる手、見る目はとても冷たいものです。

同じケアをしても、「人間愛」のないケアは看護でないと考えています。そして、人である患者様は触れられたり、看られたりすることで必ず「愛」があるかないかを感じていると思います。

私は、いつも自分を振り返る時、後輩看護師を指導する時、いつも問う言葉があります。

「あなたは、自分や自分の親にあなたのような看護をして欲しいですか?」と。こう問いかけると自分の看護に何が足りないかを考えるようになるからです。

看護のプロとして「知識」「技術」「心」と三つの要素を常に研鑽しなければいけないと思います。

よく、人から「看護師さんって大変ね」と言われますが、医療技術、知識は日々進歩している中で学び続けることは当然と考えていますし、心豊かに接すれば、患者様との関わりで人とのつながりを学ばしていただけて常に自分が成長できる環境で毎日幸せだと感じています。

ICU(重症集中治療部)という職場であり患者様が見かける場所ではないですが、時に外来に出発することもあり、外来患者様とお話する中で「看護パワー」を頂いています。外来でもICUでも気軽に「栗本さん」と声をかけてください。よろしくお祈いします。



さくら荘のイベント紹介

さくら荘 事務 水野有美

さくら荘では1年を通して様々なイベントを行っています。季節の行事はもちろん、毎月恒例のお誕生日会やボランティアの来荘もあります。ほんの一部ですがご紹介させていただきます。

今年の5月にさくら荘の創立15周年記念祭を行いました。たこ焼きを美味しくほおぼる方、炭坑節のリズムに合わせて体を動かし踊られる方、記念写真では照れながらも笑顔でピースをきめて下さる方等、大いに盛り上がりました。この時に活躍したのが1Fの認知棟にある吹き抜けの中庭です。昨年改装工事が行われ、とても綺麗に生まれ変わりました。まるで洒落なカフェテラスの様です。この中庭を利用し、春のお茶会や夏のお楽しみ会も行いました。今後も積極的に活用し、色々なイベントを行っていかれたらと思います。

その他の行事では、特に2月の節分や7月のカラオケ大会等も好評でした。節分では、豆に見立てて作った新聞紙のボールを、スタッフ扮する鬼にぶつけてもらいます。ご老人と侮ることなかれ、「鬼は外!」の掛け声と共に、勢いよくボールが飛び交いました。

7月のカラオケ大会では、皆さん素敵な歌声を披露して下さいました。エントリーされた方の中には、「当日何を着ていこうかしら?」と衣装選びに余念がなく、お気に入りの洋服で参加して下さいました。女性の方は特にそうだと思いますが、お洒落をするだけで心がウキウキするものです。日常の中のちょっとした刺激になれば、と思います。また、当日の会場に飾る輪飾り等を利用者の皆さんにも一緒に作っていただきました。当日だけではなく、準備期間も含めて楽しんでもらえるような取り組みを今後も行っていきたいと思っています。

さて、10月は運動会です。皆さん当日に向けて9月から練習を行って来ました。今年も白熱したバトルが期待できそうです!

診療科表

平成23年10月1日現在

	午前 9:00~12:00							午後 5:00~7:30												
	外科	内科	整形外科	脳神経外科	小児科	皮膚科	耳鼻科	泌尿器科	婦人科	眼科	外科	内科	整形外科	脳神経外科	小児科	皮膚科	耳鼻科	泌尿器科	婦人科	眼科
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
土	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

- ※1 休診日もございます
- ※2 第2、第4 は11:30までとなります
- 診療時間に関しては受診されます診療科目により異なります
- 不明な点がございましたら職員に確認してください
- 診療日が変わる場合があります ご了承ください

機関紙 発行 医療法人 医仁会 電話 0587(95)6711(代)
 human ヒューマン さくら総合病院 発行年月日 2011年10月1日
 No.234 丹羽郡大口町新宮1:129 発行部数 350部